

# 第10回「日本語大賞」

テーマ「忘れられない言葉」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「どこにいても、ずっと友達」

アメリカ合衆国  
シアトル日本語補習学校  
小学4年 崎門 大晃

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

小学二年の夏、ぼくは、アメリカに引っこしをしました。そして、ようち園からずっと仲よしだった親友とお別れする時が来ました。

通っていた小学校の最後の日、ちがうクラスだった子が、教室の前で待っていてくれました。その時、こらえていたなみだがあふれてしまいました。その日、親友は、帰り道がちがうのに、ぼくの家近くまでいっしょに帰ってくれました。いつも通り、おたがいが大好きな電車の話をしたりして、たくさんわらわせてくれました。

別れぎわに、

「どこにいても、ずっと友達だからな。元気だな。」

と言ってくれました。

小学三年の夏、ぼくは、一時帰国をしました。その時、予定を合わせて、親友と会うことができました。少しの時間だったけれど、時間をわすれて、むちゆうで遊びました。川遊びをしたり、公園で遊んだりしました。そこには、毎日会っていたかのような、親友との変わらない時間がありました。

ぼくが帰路につく時、親友は、新かん線の駅のホームまで見送りに来てくれました。新かん線に乗るまで、いつも通り、たわいもない話をして、たくさんわらわせてくれました。

新かん線に乗りこむ時、

「またな！」

と声をかけてくれました。ぼくがぎ席についてから、まどごしでふざけて、発車ベルが鳴るまでわらわせてくれました。発車ベルが鳴り終わって、新かん線がゆっくり動き出した時、口を大きく開けて、

「どこにいても、ずっと友達だからな、またなー！」

と言ってくれていました。まどごしで声は聞こえなかったけど、そう言ってくれているのが分かって、なみだが出ました。

ぼくは、その言葉をわすれていないし、とても大切にしています。

「ぼくもそう思っているぞ、ずっと。」